

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市小松島児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人M I Y A G I子どもネットワーク
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 18,268人（前年度比 73.1%） 令和元年度 24,989人 平成30年度 25,152人 平成29年度 27,071人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 44,450千円 ( 33,805千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 ( 0千円) ・ その他収入 0千円 ( 0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、保護者会をはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》	
<p>コロナ禍にあったこの1年は、計画していた行事や活動をほとんど中止あるいは規模を縮小して実施してきました。見通しが持てず、やりたくてもできないというジレンマを抱えての試行錯誤が続きました。一方で、安心・安全を確保しながら楽しく過ごすためには、新たな発想や工夫が必要であることを学ぶ機会になりました。</p> <p>夏休みは12日間という短いものでしたが、酷暑の中でのマスク着用や手指消毒など、児童クラブの子どもたちにとっては大変厳しい生活となりました。この閉塞感とも言える雰囲気やなにかできないかと取り組んだのが、職員がゲリラ的にマンカラ大会・将棋大会を開催し、トーナメント制にして勝敗を競い合いました。学年を超えての対戦は熱を帯び、賞状を用意したことでさらに盛り上がりました。プラバンやビーズアクセサリ作りなども行いました。時間をたっぷり設け自由な発想を大事にしました。思い思いに仕上げた作品はどれも個性的で、子どもたちの満足した様子がとても印象的でした。ウッドデッキにビニールプールを置き、足湯ならぬ足水を行ったことも評判を呼びました。</p> <p>これらの経験は、その後の日常の活動や長期休業期間における過ごし方に大きな影響を与え、自分たちで考え、発信し、実践するという姿が多く見られるようになりました。</p> <p>子どもたちの活動や環境を心配し、何か力になれることはないかと声を掛けてくださったのは保護者会の皆さんでした。感染防止に細心の注意をはらいながら本の読み聞かせや松ぼっくりでのクリスマスツリー作り、外遊びなどを子どもたちと一緒に行ってくれました。館内施設やおもちゃの消毒にもご協力をいただきました。これらの取組は保護者会のお便りを通して全家庭に紹介されました。一堂に集うことがかなわなかった保護者の皆さんをつないでくれるとともに、児童館に関心を寄せていただく絶好の機会となりました。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、コロナ禍で年齢ごとのプログラムや幼児クラブの活動を縮小せざるを得ない中、乳民生委員児童委員協議会と社会福祉協議会との共催事業で「ホットひといきママのおしゃべりティータイム」を月1回開催し、親子の触れ合い遊びや季節の遊び、音楽鑑賞や育児相談など多彩な内容を提供してきた。コロナ禍で館の再開を待っていた保護者にとって、保護者同士の交流や親子の遊び場として安心して過ごせる居場所となった。育児相談の「おたママサロン」では、地域の民生委員や近隣の子育て支援センターの保育士の協力を得ながら子育ての相談の機会を定期的に開催しており、育児の悩みについて相談できにくい状況にいる親子にとって安心の場となるなど、地域の関係者と積極的に連携をはかりながら子育て家庭を支援している。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、夏休みに子ども達が楽しめるマンカラ大会や将棋大会を職員が企画開催した経験から、高学年児童中心にドッチボール大会を企画し、当日の運営や賞状の準備をするなど運営面も含めて自分たちで取り組みを成功させるなど、子ども達の意欲を育ててきている。その後、低学年児童も自主的に遊びの企画をするなど、異年齢による集団活動を通して自主性・社会性を育てている。保護者会との信頼関係も強く、コロナ禍の子ども達を心配して何かできることはないかと、保護者会世話役会が中心となり館内消毒や絵本の読み聞かせ、工作、外遊びなどにボランティアとして積極的に参加してくれるなど、館にとって大きな支援となり来年度につながる信頼関係を築いている。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課